



# 多高図書館だより

第 74 号

平成28年7月25日

宮城県多賀城高等学校

図書委員会

## 「英語はいらない!」 (PHP新書)

教頭 佐藤 彰彦



1、2冊の本を  
推薦して欲しいと  
の注文であったが、  
なかなか難しい注

文である。私自身は高校時代には本を  
乱読していた。大衆小説が好きで、手  
当たり次第に読み、気に入った本があ  
ると、その作家の本を集めて集中的に  
読んだ。遠藤周作や司馬遼太郎、井上  
ひさし、山崎豊子など、書店に売って  
いる本は買い尽くした。代表作を1、  
2冊読んだくらいでは、その作家の持  
つ思想は理解できないと思っていた。  
また、当時はネットによる通販も無かつ  
たので、古本屋で珍しい本など発見し  
たときは興奮したものだった。皆さん  
には是非、いろいろな本を読む中で、

心に響く1冊に出会って欲しい。

さて、今回は英語教師の立場から、  
英語学習に関する本を1冊紹介したい  
と思う。タイトルは「英語はいらな  
い!」である。著者の鈴木孝夫先生は、  
英語に関する多くの本を書いておられ  
るので、そのうち何冊かを讀んだこと  
のある生徒もいるかもしれない。どの  
本においても、専門用語や難解な理論  
を並べるのではなく、平易な言葉で丁  
寧な説明を通して書かれているので、  
誰にとっても読みやすい本となっている。  
この「英語はいらない!」もそんな  
本の1冊である。

多くの高校生にとって、英語を勉強  
する目的は受験であるかもしれない。  
では何故受験に英語が必須となってい  
るのだろうか。本書ではその歴史的経  
緯を、「言葉」の持つ力や怖さという  
観点から言及している。島国の住人だ  
る日本人が「国境」という概念に疎  
いように、「母国語や外国語」という



## 図書館フォトアルバム



ものに対して見落としている視点があ  
ることに気付かされる。そして、英語  
の習得によって欧米人のようになるの  
ではなく、外国人に対応できる日本人  
となることが重要なのだと具体例を通  
して再認識できる。

初版が2001年なので、素材が古  
い点が気になるかもしれないが、著者

の主張は現在においても十分に説得力  
のあるものである。将来は国際社会に  
おいて自分の力を発揮したいという生  
徒、将来は言語学を勉強したいという  
生徒、または受験の英語の勉強に少し  
疲れたかなと感じた生徒達には、是非  
読んでみてもらいたい本である。